

(学校番号048) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋小学校】

① 4月28日 目標・策		
知識・技能	自校の実態調査アンケートを年2回実施し、2回目において、「文章や資料から必要な情報を取り出すことができますか。」の項目で、1回目のアンケートより1pt向上させる。	⇒ 学校課題研修の国語科で年間6本の研究授業を行い、研究協議会で成果や課題を追究し、指導力の向上に努める。全学年で基礎学力定着プログラムワークシートや課題克服応援シート・スタディサプリ等の「読む」領域を中心に朝の「はなまるタイム」等で実施する。
思考・判断・表現	自校の実態調査アンケートを年2回実施し、2回目において、「今までに習ったことや生活経験などと結びつけて、自分の考えをもつことができますか。」の項目で、1回目のアンケートより1pt向上させる。	⇒ 児童とともに必要感のある課題を設定し、既習事項を想起させながら解決の見通しをもたせ、自力解決する場面を設定する。また、授業の振り返りを生かして次の授業を展開する。これらの授業が全学級で展開できるように、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」についての研修を実施する。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の主体的に学習に取り組む態度に関する質問項目(例「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」)で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を全学級において実践する。

③ 9月 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
知識・技能	変更なし	⇒	
思考・判断・表現	変更なし	⇒	
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	

② 8月24日 全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>国語では、R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、+5ptであった。「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」においては、全国平均を上回っており、本校で取り組んでいる読解力向上の研修の成果が表れているものと考えられる。記述式の問題に対する無回答率も、全国平均より低く、自分の考えを表現したり、問題に粘り強く取り組んだりする姿勢が身に付いているものと考えられる。</p> <p>算数では、R4年度全国学力・学習状況調査の短答式・記述式の問題形式で、正答率や無回答率が全国平均より良好な数値になっており、国語と同様に、自分の考えを表現したり、問題に粘り強く取り組んだりする姿勢が身に付いているものと考えられる。また、この数値はR3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較しても向上している。</p> <p>「思考・判断・表現」においては、国語・算数・理科ともに全国平均を上回っているが、「知識・理解」において、算数の「B図形」と「Dデータの活用」と理科において、全国平均を若干下回った。タブレット端末を活用したドリル学習などで、基礎・基本となる「知識・理解」を身に付けていくことで、より一層の学力向上に努めたい。</p>	

④ 2月28日 さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	興味関心については、市の平均を下回る回答結果だった。国語・算数ともに、基礎問題に課題があった。無回答率は市の平均より低く、問題に取り組もうとする意欲は高い傾向が見られた。	小4	興味関心については、国語は市の平均を下回ったが、算数は市の平均を上回った。基礎や活用に課題が見られるので、漢字や言葉の使い方などの基礎基本だけでなく、思考したり、活用したりする問題にも触れさせていく必要があると考えられる。
小5	興味関心については、理科が市の平均を上回る回答結果だった。中学年までに学習した内容で躓く傾向が見られたので、スタサブやドリルパークなどで、基礎基本を繰り返し定着させていく必要があると考えられる。	小6	興味関心については、算数や社会が市の平均を上回る回答結果だった。どの教科も基礎に課題が見られたため、スタサブやドリルパークなどで、基礎基本を繰り返し定着させていく必要があると考えられる。

⑤ 2月28日 成果指標に対する達成状況		評価(※)
知識・技能	自校の実態アンケート「文章や資料から必要な情報を取り出すことができますか。」の項目では、70パーセント程度の児童が肯定的回答をした。学校課題研修では6本の研究授業を行い、朝の「はなまるタイム」等で、新聞などから必要な情報を取り出す力を高める活動に取り組んだ。	C
思考・判断・表現	自校の実態アンケート「今までに習ったことや生活経験などと結びつけて、自分の考えをもつことができますか。」の項目では、80パーセント程度の児童が肯定的回答をした。OJTや学校課題研修で教職員の指導力向上に努め、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実施した。	B
主体的に学習に取り組む態度	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の設問に肯定的回答する児童の割合は88パーセントで、目標に達しなかった。各教科においても、その教科が「好き」と回答する児童は市の平均より低い傾向にあり、主体的に学習に取り組む態度が高まりにくい状況であることがわかった。	B

⑥ 3月10日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	さいたま市学習状況調査では、全学年において、基礎基本に課題が見られた。前年度の学習内容を忘れてしまっている場合も多かったので、単元の導入時に復習をしたり、スタサブやドリルパークで繰り返し学習したりして、基礎基本の定着を図っていきたい。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査では、全学年において、思考・判断・表現に課題が見られた。問題の資料を見たときの情報の取り出す力や分析する力をNIEや読解力の研修で高めていきたい。次年度は研修の視点をより明確にして、研究授業を通して、読解力を高める授業について研修に取り組み、教職員の指導力を高めていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を今後も推進するとともに、スタサブやドリルパークで基礎基本を定着させ、授業が「分かる」と感じられる児童を増やしていきたい。そして、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた」の設問において、90パーセント以上の回答を目指したい。

※評価  
A 8割以上(達成)      C 4割以上(あと一歩)  
B 6割以上(概ね達成)      D 4割未満(不十分)